

6
vol. 244

広報 縄文村だより vol. 244(6月号)

Jomon Times



4 頁の深い教育を
みんなに

令和8年6月1日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928



ヤマザクラプロジェクト 第12回目の植樹祭を開催！

震災復興のシンボルとして2011本のヤマザクラを宮戸島に植えることを目的に2012年から始まった「ヤマザクラプロジェクト」。今年も4月19日（日）に第12回目の植樹祭を開催し、県内外から約40名の方々にご参加いただきました。



▲史跡公園でのお花見

前日に縄文村の敷地内で育てているヤマザクラの苗木を小さなポットから大きなポットへ植替える作業を行い、翌日に植えるヤマザクラを運び出しました。そして植樹祭当日の19日、良く育ったヤマザクラの苗木50本を「さとはま縄文の里史跡公園」内の段々畑に植樹しました（写真右）。

全ての作業が終了した後は、史跡公園内の高台でヤマザクラを見ながらのお花見（写真左）。今年はヤマザクラの開花が早く、少し散り始めではありましたが、ほぼ満開のヤマザクラに皆さんとても感慨深い様子でした。



▲植樹の様子。添え木をし、たい肥も混ぜ込みました。

「野蒜石」の歴史と文化に触れた春の散策



▲かつての石切り場で当時の製材工程を説明

4月14日（火）、「奥松島江ノ浜の自然を保全する会」第5回研修会が開催され、講師に木島新一さんを迎えて約20名の参加者が徒歩で散策しながら野蒜地域の石材の歴史や文化を学びました。

春の心地よい晴天の下、かつての石切り場を見学しながら、当時の製材工程や運河や仙石線を使った搬出でにぎわっていた様子を聞いた参加者の皆さんは、野蒜地域の豊かな自然と「野蒜石」の歴史に想いを馳せていました。



野蒜石ってなに??

野蒜石とは、野蒜地域で産出する凝灰岩の一種です。耐火性に優れ、加工しやすいことから、住宅や蔵などに広く用いられた石材です。昭和初期から50年代にかけて盛んに採掘されました。

最新の情報は
こちらから



facebook



Instagram



HP

シリーズ
第61回

東松島の教育を語る



東松島市「未来防災塾」～明日への継承者～

■問 教育総務課教育指導係 ☎内線1253

東日本大震災から15年の月日が流れ、東松島市は少しずつ、新しい姿へと生まれ変わってきました。本市の復興が進む一方で、震災を直接知らない子どもたちも増えています。あの時、何が起きて、どうやって命を守ったのか。その大切な記憶と教訓を、次の世代へしっかりつないでいくことは、本市にとって重要な課題の一つです。

東松島市教育委員会では、震災の経験を未来に語りつないでいく「明日への継承者」を育てる「未来防災塾」を令和7年度からスタートしました。この学習会は、震災を経験した地域の方々と出会い、当時のことや復興への道のり、そして未来の命を守るために大切なことを学ぶ場です。

昨年度は、市内の小学5年生から中学2年生までの24名が一期生として参加し、当時の警察官の方や、地域を守った大人たち、そして学校で子どもたちを必死に守り抜いた先生など、たくさんの方からお話を伺いました。また、震災の時に自分たちと同じ小学生だった方のお話を聞くことで、「もし自分だったらどうしただろう」と、一生懸命考えました。



▲震災当時について話を聞く

令和8年3月7日には、道の駅「東松島」と東松島市震災復興伝承館で、学んだことを自分の言葉で伝える語り部体験を行いました。丁寧に伝えようとする姿は、「未来防災塾第1期生」として、未来に向けて伝え続けようとする姿勢への希望を感じさせてくれるものでした。

令和8年度は、第2期生となる新しい塾生を募集し、開講は8月29日を予定しています。東松島市の未来を創るのは、今を生きる子どもたちです。震災のことを知ることは、自分や家族、友達、そして将来出会うたくさんの人たちの「命を守る」ことにつながります。今年度も、多くの子どもたちの参加を期待しています。学習会の最後には、今年度も語り部体験の実施を予定していますので、地域の皆さんにもぜひ子どもたちの思いを聞いていただければと思います。



▲道の駅「東松島」での語り部活動



▲東松島市震災復興伝承館での語り部活動